

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000106		
法人名	社会福祉法人 光栄会		
事業所名	グループホーム りんごの里		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町小津奈木2120-62		
自己評価作成日	令和7年 3月 15日	評価結果市町村報告日	令和7年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和7年 4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設6年目となりましたが、入居者様の認知・身体面に変化が見られ、さらに職員不足もある中で、業務優先ではなく、ケア優先を心掛け、関わりを持てるよう支援しています。また、認知症状の進行に伴い、対応が困難になっても日々観察し、試行錯誤しながら諦めずにケアに取り組んでいます。今年度はコロナ禍でできなかった活動も行い、楽しむことを1つでも増やし、理念である「明るく 楽しく 元気よく」暮らしていけるよう努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設間もなくのコロナ禍で、入居者に関わる地域や家族との関わりも大きな変化がありましたが、地域行事の再開やボランティア受入れ等、少しずつではありますが、従来の生活が戻って来ています。入居者も年を重ね、また身体状況の変化もあり、日々の生活においても介護の場面も増えてきたようです。そのような中、昨年度は個別の外出支援に力を入れたり、家族を交えての担当者会議開催に取組まれました。入居者の生活は基本的に自由であり、出来る事の継続に努めたケアを行うことで、今も趣味の編み物を楽しむ方や、職員と一緒に居室の掃除等を行う方もおられるようです。職員研修や法人委員会も充実しており、法人全体の情報共有が行われています。職員研修を重ねながら、自らのケアを振り返り、不安や課題を表すことができる体制である様子も伺うことができました。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し、月1回のミーティングの始まりに復唱し、共有に取り組んでいる。年間目標は理念を踏まえた項目を掲げ、年度末に評価を行っている。	「明るく楽しく元気よく」を理念としており、フロアへの掲示、ミーティング時の唱和等で共有を図っている。事業所では理念を踏まえ、リーダーを中心に年間目標を掲げており、一人ひとりの評価も行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全員ではないが、地域の祭りの見学に行った。	個別対応として入居者に馴染みのある商店への買い物支援や、市内の音楽ボランティア受入れ等を行った。事業所からは町で行われる花火大会を見ることができ、祭り見学に出向く入居者もおられる。日常的に散歩を兼ねゴミ出しを手伝う入居者もおられる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェにも定期的に参加し、地域の方の相談に乗っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々からは、感染が拡大しないよう対策が徹底されていること、行事や買い物支援など、活動の工夫がされていることなどを評価していただいている。	運営推進会議では入居者の状況報告に加え、日頃の活動や法人全体の行事・委員会活動等こまかに報告している。コロナ禍等、対面開催が難しかった時期にも書面でコメント・意見返信を頂き関係を深めてきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度の解釈の確認や通達事項についての質問等、連絡を取りながら協力関係を構築している。	運営推進会議には町・社会福祉協議会・地域包括支援センターより参加があり、事業所運営についての報告や情報交換を行っている。町と社会福祉協議会や町内の他事業所とで開催する認知症カフェに職員が参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会を通して、身体拘束の実態を確認している。2回/年の施設内研修で繰り返し学び、理解を深めている。	法人全体で組織する身体拘束・虐待防止委員会へ職員が参加し、議事録にて職員へ周知している。計画により年間4回の委員会の他、年2回の事業所内研修を行っている。対応が重なる等、強い口調になりがちな際には入居者に理由を説明する等、反省を踏まえながら具体例を示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて不適切ケアについて繰り返し学び、年1回、虐待の芽チェックシートを行うことで虐待への認識を深めている。			

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	検討の必要性があった場合は、社協の窓口へ相談できるよう、関係性を構築している。また、施設内の生活相談員に相談できる環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には丁寧に説明し、十分な理解・納得をして頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回満足度調査のアンケートを実施している。コロナ禍での面会制限により、ケアプラン更新時や電話連絡時に要望や意見等を確認している。また、毎月、報告書を送付し、全体の様子や一人一人の状況を伝えている。	年1回の満足度調査アンケートは継続している。入居者それぞれの担当職員より家族へ毎月状況報告書を作成し送付、電話連絡等、家族からの意見を表しやすい関係作りに努めている。入居者から家族への手紙も送付し、入居者と家族の関係継続にも取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による年に1回の面談を実施し、様々な意見や要望を聞く機会も設けている。月に1回のリーダー会議や運営会議を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	日頃から職員は管理者・リーダーへ意見や提案を表すことができる体制である。毎月の職員会議や管理者による年1回の職員面談も行う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状の把握は管理者を通じて行っており、給与水準の見直しを図っている。法人全体として有休がとりやすい環境づくりを目指した体制づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の必要とする研修はできるだけ全員が受講できるように時間の設定に配慮した。また、オンライン配信研修の活用に加え、シミュレーション研修にも全員の参加ができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はスタッフ不足もあり、地域密着部会への参加ができず、同業者と交流する機会が少なかった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族から生活歴や趣味、嗜好等の情報を得て、不安なことやわからないことがないように説明を行った上で、ご本人と関りを多く持ち、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の要望や不安なことに関して話せる機会を作り、その後も良好な関係を保てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に本人が望まれている生活を理解し、必要な支援を見極め、ニーズに合った対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、得意なこと、できること、できないことを把握し、その能力を維持・発揮できるよう支援しているが、見直しの必要性も感じてい努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状況報告書を送付し、面会制限は継続中だが、ご家族の心配や不安を軽減できるよう努めている。最近は対面での面会も増えてきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事を通して施設内の交流は継続している。親戚や遠方のご家族の方とも面会ができた。また、電話や手紙等で関係を保っている。	隣接する特別養護老人ホーム入居者との交流は日常的なものである。コロナ禍もあけ、遠方の家族の来訪もみられるようになった。個別支援にて馴染みのある商店への買い物同行等を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を観察し、必要時には職員が間に入り会話をつないだり、不快な思いをしないよう、気配り・目配りをして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の特別養護老人ホームへ移行された方には、りんごの里での行事と一緒に参加して頂いたり、気軽に行き来してもらうことで、関係性を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や習慣を踏まえ、日常生活での会話や表情、行動から心情を察し、本人の思いや意向の把握に努めている。	入居者によって言葉で表すことができる方、できない方それぞれに合わせた支援を行っている。職員面談では入居者それぞれにあわせ、一緒に話したり笑ったりの喜怒哀楽を共に過ごす日々の様子も聞かれ、寄り添いにより入居者の思いや意向を把握していることを確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際、生活歴や環境について把握し、サービスに活かせるよう努めている。必要時は家族に連絡し、確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や行動、表情、バイタルサインなどを参考にして心身機能の把握に努めている。状態の変化はケース記録や申し送りノートに記載、情報を共有している。いつもと違うと感じたら、申し送りで伝えるようにしている。状態の変化に応じて柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの情報や毎月のミーティング時に得られた課題や改善点等をケアプランに反映させている。家族への相談や報告を行い、現状に即したプラン作成に努めている。面会に合わせて担当者会議を行ったり、自宅へ出向いて直接家族へプランの説明を行った。	毎月のミーティングでは、入居者の担当職員を中心に気になる点や課題等を話し合い、ケアに反映させている。評価はケアマネジャーで3ヶ月～6ヶ月毎に行い、介護計画の見直しは介護認定更新時を基本とし、身体状況の変化時には随時行っている。昨年度より、担当者会議はできるだけ家族も含めて対面で実施するよう取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきを記録し、情報を共有できるよう努めており、申し送りノートも活用し、今後のケアに繋がられるよう努めている。ヒヤリハットがあった場合は、すぐに対策を検討し事故防止に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で出た要望を取り入れながら入居者様の思いに応えられるよう努めている。ご家族が困難な場合には受診同行も行っている。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、地域の祭りに出かけた。また、夕食を買いに地域の馴染みのスーパーに出かけたり、音楽療法を行ったりした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による月に1回の訪問診療、訪問歯科を受け体調管理の面で連携を図っている。専門医の受診支援同行、入居前のかかりつけ医の往診も継続している。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現在は殆どの入居者が協力医による訪問診療である。専門医・他科受診通院の際には状態を伝えるため職員が同行している。歯科医による訪問診療や歯磨き指導も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師へ相談できる環境を整えている。また、グループホームの看護職員も含めて相談しながら充実した健康管理ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携会議を毎月の往診後に行っており、情報共有に努めている。他、電話等で必要に応じて情報交換や相談を行い関係性の維持に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時リビングウィルの確認を行っている。重度化した場合は主治医も含めて家族様とも話し合い、法人内の特別養護老人ホームへの案内も行っている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針や事業所での対応について説明し確認を行っている。重度化した場合は主治医・家族他と話し合いを重ね、入居者にとってより良い生活・支援となるよう検討を行っている。特養等、住み替えの希望や必要性がある際にも案内・連携等支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制やマニュアルを作成し備えている。また、経験を踏まえ、学びなおし緊急時に備えている。緊急時対応ファイルは改善しながら更新している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施している(日中・夜間想定、火災・地震災害想定)。緊急持ち出し袋を誰でもわかる場所に準備するなど改善に努めている。	年2回の消防訓練は、同じ建物にある特養と一緒に入居者も参加し行い、消防署より講評を得ている。法人リーダー会議では台風時の夜勤体制等検討の必要性を話す機会もあり、昨年度は防災用品・準備物の一覧作成にも取組んだ。	火災だけでなく自然災害等にも備え、法人全体での取組みがあります。入居者それぞれの身体状況や必要である支援体制等をまとめた緊急用「ケアカード」を作成し、他よりの協力にも備えた準備がありました。今後は避難訓練の時間帯等、より実際に近い状況での実施も工夫されてはいかでしょうか。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心がけているが言葉遣いや声の大きさ等、まだ不十分などところがある。	入居者の性格や生活歴、認知度等にも配慮し、それぞれに応じた対応や言葉掛けを行っている。勉強会や研修では、対応が重なった時の言葉遣い等、自らのケアを振り返る機会を持ち、職員間で対応の共有を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが思いや希望を言えるような環境作りを行い、自己決定が出来るよう努めている。うまく伝えられない方には、表情や会話などから読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう継続して伝えている。昨年よりは意識して行えていると思う。起床時間は本人の状態、ペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、馴染みの美容室の利用を継続している。好みに合わせた身だしなみができるよう、ご家族に協力してもらいながら支援している。ほとんどの方が自分で服を選んで着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供体制に変更があり、メニューによって盛り付けをし直したり、食べやすくして提供している。行事の際には栄養士に協力してもらい、昔を思い出したり、ワクワクする気持ちになってもらうように工夫している。馴染みのスーパーへお弁当を買いに出かけたり、地域の特産物を味わう機会を作った。	現在は配食を利用しているが、入居者の認知度や好み等も配慮し、盛り付け方法や食器の色を変える等、工夫して提供を行っている。入居者それぞれについて食事摂取等の気付きがある際には法人関連部署と給食会議を開催している。季節の食材を使った一品や行事食の提供等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取は記録し、管理しているが、必要に応じて医師や栄養士に相談している。摂取量が少ない方には嗜好品や代替品を提供するなど状態に応じて形態を変える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの方が食事後自ら歯磨きを行っているが、声掛け、見守り介助が必要な方には支援を行っている介入が難しい方もいるため訪問歯科の利用および指導は、助かっている。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方には、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。介助が必要になった方でもできるところはおこなってもらい、できないところのみを介助している。パットの種類の工夫や夜間のポータブルトイレの使用、トイレへの誘導の声掛けは個々に合わせて行っている。	できるだけトイレでの排泄が継続できるよう支援を行っている。夜間にはポータブルトイレ等も利用し、安全面への配慮も行う。体調等によりリハビリパンツやパット等を一時的に使用する際も、体調改善の際にはできるだけ早くもとの状態に戻れるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日チェックを行い、水分を多めに摂ってもらうよう、また適度な運動も取り入れるよう努めている。状況に応じて医師に相談し、便秘薬を調整しながら、対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回午後に行っている。体調や状況によって曜日や時間をずらしたり清拭に変更するなど柔軟に対応している。残存機能の維持ができるよう努めている。個々の状態に合わせて、リフト浴も使用している。	週2回を基本とした入浴を支援している。リフト浴も可能で、入浴の際にはできるだけ浴槽を利用して頂いている。清拭も利用し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や状態に合わせて、支援をおこない、体に負担の無いよう、日中も休息してもらうよう静養時間を設けている。また、室内の温度や湿度に注意するなど環境にも配慮している。睡眠がとれない方には、寝具の工夫や湯たんぽを使用し、睡眠の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書をファイルし、その都度確認できるようにしている。誤薬などが無いよう服薬時の確認を丁寧に行っている。処方変更になった場合、家族に報告、記録して状態観察を行ない、協力病院の訪問診療や専門医の受診時に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人楽しみごとややりたいこと、家事活動を継続できるよう支援している。家族からの差し入れもある。嗜好品は主に職員が依頼を受けて購入している。調理活動の時間はなかなか取れなかった。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに花見に出かけたり、買い物に出かけたり、八詣でやふれあい祭りの参加など、前年度より外出の機会は多かった。	現在、入居者の車椅子利用等も増え、一人ひとりその日の希望にそった外出支援は難しい状況であるが、今年度は、個別に馴染みのある商店への買い物や通院を利用した買い物等に取り組んだ。町の祭りや季節の花見等にも出向いた。散歩を兼ねゴミ出しを手伝う入居者もおられる。	自己評価や面談でも課題とされていました。高齢化や身体状況の変化もあり、生活の中での外出の機会作りが難しい状況もある中、個別支援に取り組まれた様子が聞かれました。今後の支援の継続に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に1回、個別で買い物支援を行っており、その際は、自分で支払いをもらった。お小遣いは能力に応じた管理方法をとっている。買い物支援以外で依頼された買い物等は職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話ができるよう支援している。手紙の投函の希望があった場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作った季節を感じられる製作物を飾ったり、季節の花を飾ることもある。また、室温・湿度にも配慮している。室内は自由に行き来できるよう安全な動線を確保し、快適に過ごせるよう努めている。	入居者の生活は基本的に自由であり、共用空間や居室でそれぞれの生活がある。壁には塗り絵等、入居者の普段の生活を感じる掲示もされている。安心安全に配慮し、行動の妨げにならないよう席の配置等行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性や状態を考慮して席の配置をしている。外を眺めたり、テレビを視聴したり、思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んで頂いたり、好きなように飾ってもらったり居心地よく生活できる空間になるよう支援している。また、ベッドや家具は本人の行動などを把握し、安全を考慮して配置している。また、面会の時に撮影した家族との写真を飾ってもらうようにしている。	入居時にこれまでの生活の継続を感じることができるよう使い慣れた生活用品の持ち込みを歓迎している。仏壇や位牌、筆筒やテレビ等、それぞれの生活の様子を感じることができる。避難時に備え、居室入り口上部には入居者の歩行状態をイラストで掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるよう動線を確保し、危険なところには保護し、行動をみながら柔軟に対応し、環境整備を行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームりんごの里

作成日 令和 7年 5月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について今後、避難訓練の時間帯等、より実際に近い状況での実施も工夫されてはいかがか。	夜間想定時間帯を夕方 に設定し、実施する。	助言を受け、夜間により近い状態（陽が落ちた時間帯）での訓練を行う。	12か月
2	49	高齢化や身体状況の変化もあり、生活の中での外出の機会作りが難しい中、今後の支援の継続に期待する。	ひとりひとりの心身の状態に合わせ、外出支援を継続する。	前年度以上に地域イベントに出かける。地域の店舗を利用し、買い物支援を継続する。	1か月～
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。